

開催日: 5月18~20日 開催場所: 愛媛 格式: 国内 主催: MAC [クラブ登録No.加盟38022]、ETOILE [クラブ登録No.加盟38001]、DCR [クラブ登録No.加盟38009]

フォト/中島正義(コネクト)、水野文幸、JAFスポーツ編集部 レポート/JAFスポーツ編集部

新井敏弘 WRX、グラベル初戦を制し、反撃開始



4戦目で今季初優勝を飾った新井敏弘/田中直哉組。タフグラベルの一戦を走り勝った。

全

日本ラリー選手権は第3戦ラリー丹後から3週間のインターバルを経て、5月18~20日の久万高原ラリーから、いよいよ今シーズンの命運を大きく左右するグラベル5連戦に突入した。

その初戦となる久万高原ラリーは、四国愛媛の標高1000mにも近い高地の山々を、縫うように走るグラベルロードが舞台となる一戦。まずレグ1は「大野ヶ原」、「大谷」の2ステージと、HQ&サービスが置かれたハイランドパークみかわに隣接するスキー場のギャラリーステージを2回ずつ回る計39.68kmをアタック。レグ2は大谷のリバース、スキー場ステージに「安田」が加わり、3つのステージをこれも2回走る28.14kmのSSが用意される。

なお大谷はレグ1は9.61km中2.02kmが舗装。一部コースを変え逆走となるレグ2は6.15km中2.68kmが同じく舗装となる。SSの総距離だけを見れば67.82kmと決して長丁場とは言えないが、大野ヶ原と安田はハードなグラベルが待ち受ける、ドライバーとクルマにはタフなステージだ。実際、参加51台中、ちょ

うど1/3に当たる17台がリタイアとサバイバルラリーの様相を呈したが、グラベルを知り尽くすベテランが多くエントリーしたJN3クラスは、参加8台中7台が完走。このラリーを走り抜くためのヒントは、どうやらこのクラスに隠されているようだ。

13台中5台がリタイアとなったJN6クラスは今季まだ勝ち星のない新井敏弘/田中直哉組がSS1、2と連続ベストを奪い、ラリーの主導権を握る。セカンドベストを連取した柳澤宏至/加勢直毅組が新井組を追うが2ループめ最初のステージのSS4でパンク。代わって1ループめは2番ゼッケンで砂利掻き役を強いられた勝田範彦/石田裕一組がSS4、5をベストで上がるが、1ループめの遅れは大きく、3番手でラリーを折り返す。2番手につけた奴田原文雄/佐藤忠宜組も18.2秒のビハインド

と苦しい展開だ。

新井組はレグ2に入っても、今回最もタフなステージとなった安田で先頭ゼッケンながら2本ともベストを奪うなど手綱を緩めず、さらにリードを広げてフィニッシュ。フルポイント獲得も狙ったが、この日はギャラリーステージのSS9でのブレーキトラブルが響いてDAYベストは勝田組に献上。勝田組は奴田原組に3秒遅れの3位でゴールとなった。

「まあ、たまには勝たないとね(笑)」とホッとし

た表情を見せた新井選手は、「久しぶりのグラベルだから

JN6クラス/1.このラリーとは相性のいい奴田原文雄/佐藤忠宜組だが、今回は2位。**2.**果敢な攻めの走りを見せた勝田範彦/石田裕一組は3位でフィニッシュ。**3.**「作戦通りの展開に持ち込めた」と振り返った新井選手。





JN4&JN3クラス／4.舗装で行われた昨年に続き久万高原2連勝の曾根崇仁86。**5.ZC33** スイフトの初戦で表彰台獲得の高橋悟志／箕作裕子組。**6.JN3**の3位には群馬のラフグラベルで腕を磨いた藤田幸弘／藤田彩子組が入賞。**7.10.JN3**は今回も天野智之／井上裕紀子組がライバルを寄せ付けず圧勝。**8.**レグ1のバーストから2位まで挽回した上原淳／漆戸あゆみ組。**9.JN3**大倉聡／豊田耕司組は藤田組との2位争いを制した。



JN2&JN1クラス／11.17.「最初にマージンを築けたので後はペース配分して走れました」。JN1はグラベルに強い古川寛／廣田幸子組が本命の前評判通りに快勝。**12.15.JN2**はTGRフリーチャレンジ出身の長崎雅志／秋田典昭組がサバイバルな一戦を制して全日本初優勝を飾った。**13.**元GPライダーの青木琢磨選手が国内ラリー初参戦。JN2・2位で完走を果たした。クロカンラリーの経験は豊富だが、「結構、皆、飛ばすねぇ(笑)」とスプリントラリーの洗礼を受けていた。**14.**レグ2をベストで上ったJN1伊藤隆晃／大高徹也組は2位入賞。**16.JN1**の3位には前戦優勝の小川剛／佐々木裕一組が入った。



どうかなと思ったけど、SS1、2とプッシュしたらベストが獲れたんで2ループめは抑えたんだ。今日も1ループめだけ踏んで安田の2本めは最初は抑えたんだけど、抑えると却って危ないんで途中から全開にした。安田は足が硬すぎていつもより動きはぎこちなかったけど、まあクルマが最後まで問題なく走れて良かったよね。ただやっぱりDAYベスト逃したのは痛い」と振り返った。

86勢が多数を占めるJN4クラスには高橋悟志、関根正人といった実力派がZC33スイフト

で参戦し、話題を集めた。しかしまずラリーをリードしたのは、昨年のグラベルラリーでも速さを見せた上原淳／漆戸あゆみ組のシビックタイプRユーロだった。上原選手は「絶対、サバイバルになると思ったんであくまで様子見で走った」というSS1、2で連続ベストを奪取。



ハイランドパークみかわで行われたギャラリーステージには今年も多くの観客が詰めかけ、イベント広場も賑わいを見せた。



JN5クラス／18.ベスト2本と速さを見せた横嶋良／木村裕介組が2位ゲット。**19.20.**グラベルでの速さを見せつけた小濱勇希／草加浩平組が前戦に続いて2連勝。



「昔のように上原君が途中でいなくなってくれないので(笑)、彼との勝負になると思って最初から全開でした。SS5の大谷は後半が道が良かったので勝負賭けて踏み切りました。特にラフグラベル対策はしてこなかったんですが、クルマがいい動きをしてくれました」と曾根選手。2番手にはDAY2を4位でスタートした上原組が食い込み、高橋悟志／箕作裕子組がスイフトでの初ラリーを3位で終えた。